

「新世紀とやま文化振興計画(改定版)」(最終答申案)の概要

2 文化活動の現状と課題

県民の文化活動

- ・県民の文化の鑑賞や創作活動等は、活発である。
- ・子どもたちが文化に親しむ機会の拡充を図ることが重点施策として求められている。
- ・芸術各分野の活動は活発だが、高齢化により愛好者の減少が懸念される。
- ・県芸文協は全国的にトップレベルの活動を展開

文化施設

- ・ふるさと文学の普及、資料の収集・保管が課題
- ・文化施設のハード面の整備は全国トップレベル
- ・今後は、ソフト面を充実し、地域の文化活動の拠点機能の向上が課題
- ・美術館等では、来館者の増加策などが課題

高齢者、障害者の文化への参加

- ・文化施設に足を運びにくい人たちへの芸術鑑賞、体験機会の拡充、ボランティアの拡充が必要

次世代を担う子どもたち、青少年の文化活動

- ・総合的な学習の時間等も活用し、学校での文化体験の取り組み充実が課題
- ・若手芸術家、伝統文化・芸能の後継育成が課題

世界への文化の発信

- ・利賀は、東アジアの舞台芸術の拠点として一層の充実が必要
- ・県芸文協は、海外文化団体と活発に交流

伝統文化の掘り起こし、活用と発信

- ・おわら風の盆などの伝統芸能、世界遺産五箇山合掌集落等の文化資源を活かした発信が課題

情報通信技術を活用した新しい文化の創造と発信

- ・情報通信基盤の整備は全国有数
- ・提供する映像情報等の充実が課題

文化と産業の連携

- ・魅力ある地域文化の観光資源としての活用が課題
- ・「とやまの食」のブランドイメージの確立が課題
- ・売薬や銅器に由来する最先端のものづくり文化が発展

文化を活かした地域づくり

- ・立山信仰や越中万葉等、地域には、特色ある伝統、歴史、文化を活かした活動が多いが、十分知られていない。
- ・文化を活かした賑わい創出が求められている。

3 基本目標と施策の方向性

(下線部) …変更・追加部分

富山から世界に、人と文化の輝く「元気とやま」の創造

基本目標

- ・県民が幅広い文化の鑑賞や新しい文化の創造を楽しみ、文化を通じた交流や文化活動に参加することを拡大していく。特に、次世代を担う子どもたちが、文化に親しむことを促進する。
- ・質の高い文化を創造し、世界に発信する。「とやまブランド」を確立する。
- ・質の高い文化の創造と、世界に発信する。「とやまブランド」を確立する。

賑わいを創出し、産業振興・観光との連携など、社会の各分野で文化と連携し、総合的な文化振興に関する施策を展開する。

文化の担い手と県の役割

文化の担い手は県民。文化を鑑賞、創造、交流するための機会を確保し、文化活動に参加する団体の役割は、県民が様々な主体により、野心的な活動を行うことと、野心的な活動を行うこととを条件整備や環境づくりにより支えること。文化行政の推進体制のあり方について検討が必要

文化振興の3つの視点

- ①文化を創造・鑑賞・支援する人材の充実
- ②環日本海・アジア新時代への到来などグローバル化への対応
- ③ふるさとへの誇りや愛着の涵養

陸・海・空の交流基盤

- ①北陸新幹線の開業
- ②伏木富山港の機能充実
- ③富山空港の利便性向上

とやまの魅力向交流人口の拡大に向けた取り組みが必須

- ・身近なところで優れた文化を鑑賞する機会の充実
- ・文化の創造への支援
- ・文化を通じた交流・文化活動への参加の拡大
- ・次世代を担う子どもたち、青少年の文化活動の充実

施策の方向性

文化活動への幅広い県民の参加

- ・アジアを代表する舞台芸術の拠点づくり
- ・特色ある国際的な文化振興事業の展開と発信
- ・富山固有の文化の発信と県民による再認識と発信
- ・情報通信等技術を活用した文化の創造と発信

質の高い文化の創造と世界への発信

- ・文化振興と観光振興
- ・文化を活かしたまちづくり・地域づくり
- ・とやまの食の魅力のアピール
- ・文化を活かした産業の振興

文化と他分野の連携

文化の夢構想

②とやま文化の世界展開

③立山・黒部文化の発信・発信

1 計画の趣旨等

(1) 計画策定の趣旨

社会経済情勢や県民の文化活動の状況等の変化を踏まえ、県が重点的に実施すべき文化振興施策を示すため、新しい文化振興計画を策定する。

(2) 計画の位置付け

富山県民文化条例第8条第1項に基づく文化振興に関する基本計画

(3) 計画の期間

平成24年度から平成33年度までの10年間

文化に関する県民アンケート調査 (H22)

区分	H17	H22
この1年間に、文化に関する催しに出かけたことがあると答えた人の割合	89.9%	89.8%
この1年間に、自分で演じたり、作ったりしたことがあると答えた人の割合	39.3%	24.7%
現在、ボランティア活動をしていないと答えた人の割合	88.0%	93.8%
文化が息づくまちづくりに関し力を入れることでは「文化を活用した観光振興と連携したまちづくりを進める」と答えた人の割合	33.3%	37.9%
文化の振興を通じて「元気とやま」を創造することでは「文化を活かして中心市街地にぎわいの創出」と答えた人の割合	20.2%	26.0%

文化活動に関するアンケート調査 (H22)

区分	主な意見
文化団体・ボランティア等	・日常的な練習場所の確保 ・後継者の育成、若年層への普及、指導者の育成
市町村	・文化施設の老朽化による改修が課題 ・次代の担い手として子どもを育成するためには、参加・体験型の事業の実施
企業	・今後、できる限り文化活動を支援したいとの回答が大半 ・支援の課題として、「経営状況の変化、予算の捻出」との回答が多い

富山県文化審議会での主な意見

主な意見

H22. 6	・ボランティア養成・人材活用をシステム化 ・若手芸術家の育成・雇用確保 ・職人の後継者養成が重要 ・文化資源の発見と活用に取り組みべき
H22. 10	・子どもたちが芸術文化に触れることが大事 ・文化とまちづくり、観光との連携が必要 ・伝統文化、芸能の後継者育成が必要 ・食文化など生活に根付く文化の伝承
H23. 6	・10年間の計画の中でも最初の5年間で重点的に取り組むことを明確にすることが必要 ・北陸新幹線開業までに魅力のプログラミングが必要 ・「文化振興の視点」を具体的に記載すべき ・文学館の成果に期待